

1. ログローダ導入に伴う生産販売体制の改善について

蟹田宮林署

○ 鈴木 幸康

吉田 清一

1 はじめに

蟹田宮林署では、昭和63年度から高齢級スギ「蟹田スギ」のブランド化を推進してきた。推進に当たり、特に、品質管理向上に努める中で平成2年度ログローダ導入に伴い、材面のトビ傷防止、巻立作業における選別巻立作業の軽減、他事業への有効活用等について取り組んできたことについて報告する。

生産販売体制の確立（目標）

| | |
|---|------------------------------|
| 1 | 木材需要・木材市況の動向に応じた、注文材等を積極的に生産 |
| 2 | 高齢スギの葉枯し材（サンドライ、寒切り材）の生産 |
| 3 | 有利採材と、蟹田スギのブランド化 |
| 4 | 未利用資源の掘り起こし |

（図-1） 生産販売体制の確立（目標）

この4大目標は、いかに販売単価アップを図り一層の収入の確保と相まって「蟹田スギ」のブランド化を推進し、今まで余り利用されていなかった丸太についても見直しを行い、価値ある製品を販売していこうという職員全体の取り組む姿勢を打ち出したものであり、これらの目標の実践内容について述べたものである。

ア. (1)の主な取り組み

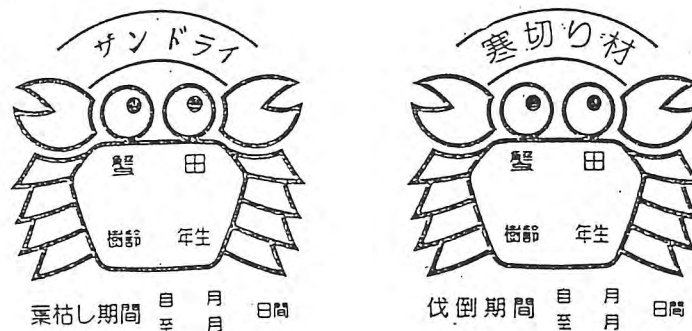
現場職員に素材入札状況を見学させ、入札終了後事業課長が中心となり、入札結果の分析と今後の採材方法の検討等の勉強会。

イ. (2)の主な取り組み

1月中に伐倒し、春に生産する寒切り材等の生産

ウ. (3)の主な取り組み

準高品質材を生産し、委託販売とし、蟹の絵入りマークの実施



（図-2） 蟹の絵入りマーク

エ. (4)の主な取り組み

定尺を採材した余りの材の活用

1. 1 m材の生産-----m³ 当たり36千円

端尺材-----259個-----個当たり580円

2 スギの年度別準高品質材生産量

(図-3)の表でわかるとおり3.65m材が増加しているのは、ログローダの導入の効果である。

4.0m材が減って6.0m材が増加しているのは、4.0m採材より6.0m採材の方が材価が高いことと良質材の生産が可能であったため。

年度別準高品質材生産量

単位：m³

| 長級 \ 年度 | 63 | 元 | 2(夏山) |
|---------|-----|-----|-------|
| 3.65m | 3 | 88 | 121 |
| 4.00m | 531 | 291 | 149 |
| 6.00m | 195 | 154 | 397 |

(図-3) 年度別準高品質材生産量

3 スギの総生産量に占める準高品質材の比率

63年度の比率は13%、元年度は10%、2年度は23%と比率が向上しているのは、(図-1)での4大目標に積極的に取り組んだ結果とログローダの導入の効果である。

スギ生産量に占める準高品質材の比率

| 区分 \ 年度 | 63 | 元 | 2(夏山) |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| スギ生産量 m ³ | 5,777 | 5,330 | 2,900 |
| 準高品質材 m ³ | 751 | 533 | 667 |
| ウエイト % | 13 | 10 | 23 |

(図-4) スギの総生産量に占める準高品質材の比率

4 2年度委託販売における平均単価

「蟹田スギ」のブランド化とP・Rのため積極的に、各地域への委託販売に出品し、好評を得ている。当営林署のスギ全体の平均単価が約4万円と比較してみれば一目瞭然である。

2年度 委託販売平均単価

単位：千円

| | | |
|-------|-------|-------|
| 3.65m | 4.00m | 6.00m |
| 70 | 100 | 120 |

(図-5) 2年度 委託販売平均単価

5 機械巻立数量

材面にトビ傷をつけないことも、品質管理の向上策として業界に高い評価を得た結果となっている。

機械巻立数量

| | | | |
|--------------------------|----|-----|-----|
| 年 度 区 分 | 63 | 元 | 2 |
| 数 量 m ³ | 0 | 297 | 739 |
| ウ ェ イ ト % | 0 | 6 | 25 |

(図-6) 機械巻立数量

6 ログローダの有効活用

アタッチメントにバケットを取り付け、採石の散布、法面崩落土砂の除去、林道など災害の早期復旧、作業道修理等他事業への活用が図られた。

他事業への使用実績

| 月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 計 |
|----|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 日数 | 1 | 0 | 3 | 3 | 3 | 0 | 2 | 2 | 14 |

(図-7) 他事業への使用実績

7 考察

機械巻立は、作業条件や地形によって左右されるが、更に技術の向上に努めるとともに、生産休止期間中の他事業への有効活用を図り、間接費用の節減に努力し販売単価の向上と、より一層の収入の確保に取り組む中で、国有林野事業の経営改善に努めたいと考えている。